

講座選択チェックテスト

問1 (大項目④ 心理学・臨床心理学の全体像)

心理学・臨床心理学の成り立ちに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- ① W, Wundt は人の意識は一つ一つの感覚や感情の結合によってとらえることができるという構成主義の立場に立ち、初めて心理学実験室での実験を行った。弟子の E, Titchener がアメリカで構成主義心理学に発展させた。
- ② S, Freud が創始した精神分析では、心的現象は要素に還元するのではなく、一つのまとまりとしてとらえることが重要だとしている。
- ③ J, Watson を中心とした行動主義心理学は、人間をシンプルに理解することに貢献した。刺激と反応の間に生体を位置付け、記憶や認知を研究対象としたことが特徴である。
- ④ 新行動主義心理学は、Tolman, E. C.らが中心となって発展させた。ここで提唱された S-R 理論は客観性を重視し、心の存在を認めていなかった。
- ⑤ ゲシュタルト心理学は、無意識的な心理過程の探求を中心とした心理療法である。この流れを汲む K, Lewin は、集団力学と呼ばれる考え方を提唱した。

(正答率 62.7%)

問2 (大項目⑦ 知覚および認知)

思考と推論に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- ① 帰納的推論は、前提が正しければ必ず正しい結論が導かれる。
- ② 帰納的推論は、事例収集・仮説形成・仮説検証の三段階構成である。
- ③ 問題解決の方法であるアルゴリズムは、シンプルだが短期間で必ず正しい結果に到達できる。
- ④ ヒューリスティックは必ず問題解決に至らないために、日常生活の中で用いられることはない。
- ⑤ 演繹的推論は、個別の事例から一般的な法則を導き出すために、推論の内容が常に正しいことが保証される。

(正答率 66.6%)

問3 (大項目⑧ 学習及び言語)

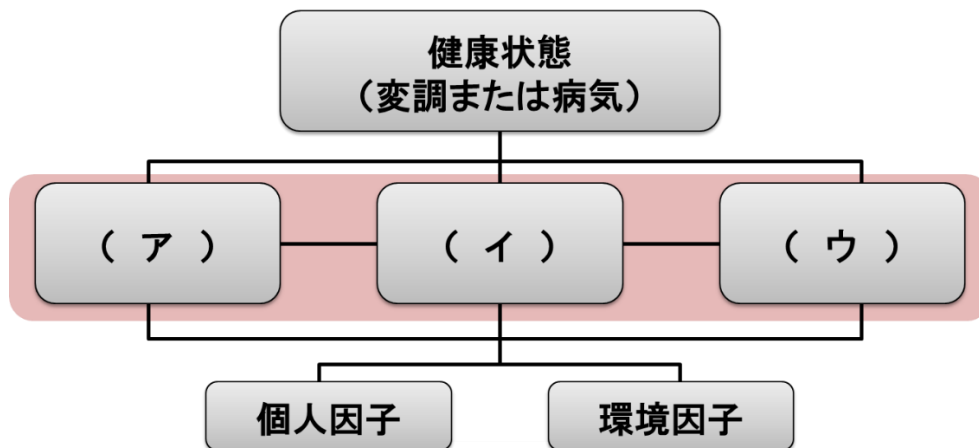
ヒトの言語習得に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選べ。

- ① 子どもが2歳近くになり、一気に話せる言葉が増えることを語彙爆発という。
- ② 子どもが文法を学習できるのは、徹底的な指導によるものである。
- ③ 子どもの言語音の習得の段階は、基準喃語から始まり、クーイングとなる。
- ④ 子どもは3歳を過ぎなければ、異なる音声の話す同じ単語を同一のものとして認識できない。
- ⑤ 子どもの言語習得にあたり、認知的制約の有用性は必要でない。

(正答率 69.0%)

問4 (大項目⑬ 障害者(児)の心理学)

ICFの構成要素間の相互作用の図で、()にあてはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものを1つ選べ。



- ① (ア) 心身機能・発達状態 (イ) 活動 (ウ) ソーシャル・サポート
- ② (ア) 心身機能・身体構造 (イ) ソーシャル・スキル (ウ) 社会参加
- ③ (ア) 障害状態 (イ) 発達状態 (ウ) 対処方法
- ④ (ア) 疾病・障害状態 (イ) 心理的成長 (ウ) 社会参加
- ⑤ (ア) 心身機能・身体構造 (イ) 活動 (ウ) 参加

(正答率 58.8%)

問5 (大項目② 精神疾患とその治療)

15歳の男子A, 中学3年生。幼少期に父親が失踪し、母親一人に育てられてきた。母親はパートの仕事に出かけることが多く、一人で食事を摂ることが多かったという。もともと活発な子ではあったが、小学3年生ころから他児童への粗暴な行為や教室内の立ち歩きなどが目立つようになり、児童の中で孤立するようになった。

教師からは毎日叱責を受け、呼び出された母親からも怒声を浴び、平手打ちをもらうなどのことが増えた。教師や母親への反抗的な態度はますます強まり、小学6年生の修学旅行では、旅行先で他校の生徒と喧嘩をして、警察が介入するほどの大事を起こした。後から判明したことだったが、この頃、素行の良くない他校の生徒と交流を持つようになり、駄菓子屋などで万引きを繰り返すようにもなっていたという。

中学に進学すると、髪を金髪に染め、ピアスや改造制服に身を包むようになり、深夜徘徊をして、自宅には夜明けに帰ってくるような、昼夜逆転の生活が続く中、不良仲間とともに集団暴走行為を繰り返し、15歳時に警察に逮捕され、家庭裁判所に送致された後、少年鑑別所にて資質鑑別を受けることになった。

Aの生活史から推論される状態として、該当しないものを1つ選べ。

- ① 愛着障害
- ② 注意欠如・多動症 (ADHD)
- ③ 反抗挑発症
- ④ 素行症
- ⑤ 反社会性パーソナリティ障害

(正答率 55.5%)

(注) 正答率は、河合塾 KALS が実施した公認心理師模擬試験 (1684 名受験) のデータに基づいて算出されたものです。

<正答>

問題	問1	問2	問3	問4	問5
正答	①	②	①	⑤	⑤
正答率	62.7%	66.6%	69.0%	58.8%	55.5%

<解説>

問1

【解答】①

【解説】

- ① 正しい。
- ② 「心的現象は要素に還元するのではなく、一つのまとまりとしてとらえることが重要だとしている。」はゲシュタルト心理学に関する記述。
- ③ 「刺激と反応の間に生体を位置付けたことで、記憶や認知も研究対象として扱えるようになった」は新行動主義に関する記述。
- ④ 「ここで提唱された S-R 理論は客観性を重視し、心の存在を認めていなかった」は行動主義に関する記述。
- ⑤ 「無意識的な心理過程の探求を中心とした心理療法である」は精神分析に関する記述。

問2

【解答】②

【解説】

- ① 前提が正しければ必ず正しい結論が導き出されるのは演繹的推論である。
- ② 正しい。
- ③ アルゴリズムは煩雑で時間がかかる。
- ④ 必ずしも問題解決にならないが、ある程度の満足を得られるために、日常的にはよく用いられる。
- ⑤ 個別の事例から導き出されるのは帰納的推論であり、推論の内容が常に正しいという保証はない。

問3

【解答】①

【解説】

- ① 正しい。
- ② 養育者が文法の間違いを厳格に修正しなくても、その抽象的なルールなどを取り入れ

る力を持つと言われている。

- ③ 習得の段階は、クーイングから、基準喃語へと進んでいく。
- ④ 子どもが、異なる音声発語された同じ単語を、同一のものと認識できるのは、1歳くらいと言われている。
- ⑤ モノに関して全体的に捉えられることや、AとBは違うモノであるという認知的制約があつてこそ、語彙の獲得は進む。

問4

【解答】⑤

【解説】

(ア)は心身機能・身体構造、(イ)は活動、(ウ)は参加である。ICFとは、2001年に世界保健機構(WHO)より発表された国際生活機能分類のことで、障害のマイナス面から、生活機能というプラス面への視点の変化を促した。

問5

【解答】⑤

【解説】

- ①~④ いずれも可能性が考えられる。
- ⑤ 反社会性パーソナリティ障害は18歳未満に診断されないため、Aの年齢が15歳であることから、明らかに該当しない。